

「第四次国分寺市農業振興計画」(案)へのパブリック・コメントの結果について

○パブリック・コメントに対する意見について

意見の募集期間：令和7年11月17日(月)から令和7年12月17日(水)まで
 意見をお寄せいただいた方：3(個人3・団体0)
 お寄せいただいた意見の数：13件
 反映する意見の数：0件
 (案)に反映済みの意見の数：7件

※ 反映状況について
 有：反映する意見
 無：反映しない意見
 済：(案)に反映済みの意見

No.	項目	いただいた意見の概要	市の考え方	反映状況
1	【p. 2】 第1章 3計画の位置付け	第三次計画に入っていた農業基本構想が第四次計画から抜けていることについて、計画の位置付けで説明されている「農業経営基盤化促進法の改正などに伴う東京都の地方計画の見直しに合わせて迅速に対応できるように、本計画から独立した位置付けとする」の意味を教えてください。第三次計画には、農業基本構想が掲載されていて、これを基に第三次計画具体案が書かれているので分かりやすい。また、農業を振興したいという市の熱意が読み取れた気がした。今回は独立して立案したとあるが、このことによって、せっかくの推進計画が豊かさを欠いているように見える。今後、基本構想はどういう扱いになるのか、基本構想は推進計画の上位計画なのかを明確にしてほしい。個人的には、基本構想が描かれていればこの計画と考えたいがどうなのか。	農業基本構想と農業振興計画では改正や見直しに必要な手続が異なるため、計画の期間内に基本構想の改正が生じる可能性があります。そのため、計画冊子に基本構想を掲載することで、基本構想の内容が最新のものではなくってしまうことから、基本構想と計画を常に最新の内容として関連してお読みいただけるよう、市ホームページに最新の情報を掲載するとともに、計画冊子から市ホームページへ誘導できるように掲載方法を工夫してまいります。	無
2	【p. 47】 第2章 3国分寺農業の今後の課題 1. 担い手不足への対応 【p. 54】 第4章 基本施策1 主な施策1-3. 農業を支える人材育成と活躍の場の提供	「多様化する農業へのかかわり方に対応した援農ボランティアのマッチングといった運営面の課題があります」について、コーディネート力を高めてほしい。市民農業大学を受講し養成された援農ボランティアと、受入農家とのマッチング強化とありますが、紹介後も各農家に任せきりではなく、それぞれの様子を把握し両者の要望を受けとめて、うまくコーディネートする役割が重要です。まさに農業の理解者が増え、生産者も消費者もともに農のあるまちを享受するために、細やかなコーディネートをお願いしたい。	援農ボランティア受入農家と援農ボランティア活動者の希望調査をした上でマッチングを行い、援農ボランティア活動後も、活動の継続確認やニーズ把握を行っています。更なる体制強化に向けて、JAと連携ながらマッチングやフォローアップを行っています。	済
3	【p. 47】 第2章 3国分寺農業の今後の課題 2. 農地の減少への対応 【p. 56】 第4章 基本施策2 主な施策2-3. 農地の多面的機能の発揮・理解促進	「農地の保全と有効活用が極めて重要な課題」との記載がある。主な取組16)の農地保全に向けた国・東京都の補助制度の周知・活用支援を最大限使って、農地の減少を抑えてほしい。 また、主な取組18) 環境や景観の保全における農地の役割に対する理解の促進は、地域のコミュニティ活動の中や、教育の現場とも協力して進めてほしい。	農地を保全するために、引き続き、国や東京都の補助制度が適切に活用されるよう周知や支援を行っていきます。 また、地域のコミュニティ活動の一つとして、国分寺いきいき農園において農業体験の機会を提供していることに加え、市民農園や市民農業大学など市が実施する事業の中で多種多様なコミュニティが形成されています。また、JA青壮年部による各学校での出前授業を実施するなどの連携を行っています。今後も地域や教育活動と連携しながら事業を進めてまいります。	済
4	【p. 54】 第4章 基本施策1 主な施策1-3. 農業を支える人材育成と活躍の場の提供	農業を支えるのはボランティアの仕組みだけでは無理だと思う。高齢化と気候変動でますます厳しい作業となる農作業については、ヘルパーとして、しっかり仕事としてのしきみをつくるべきだと思う。農業が好きで農作業を仕事として受けた人に有償で働いてもらう。市が人材登録し派遣する形でもよいと思う。研修も随時行いながら働いていただくのはどうか。そうした基盤があって生業が回っていればそのボランティア参加の楽しさなのではないかと思う。	平成8年度から援農ボランティア事業を実施しており、多くの援農ボランティアの方に活動していただいています。農業ヘルパーは、援農ボランティアとの作業内容の差別化が難しく、待遇の差が生じることによる課題が発生することが懸念されるため、各農業者が実情に合わせて対応いただくことが必要と考えます。	無
5	【p. 55】 第4章 基本施策2 主な施策2-1. 農地関連法制度の周知・活用	相続が発生すると農地が売却され、宅地化されてしまいます。相続税の猶予制度の周知はもちろんのこと、個別事情を相談できる体制も必要ではないでしょうか。相談に対する費用援助なども行ってはどうでしょうか。	相続制度の周知に加え、勉強会を通じた情報提供や交流会を実施しています。農業関係団体と連携し、農業者の個別事情に合わせた相談体制を継続していきます。費用援助については、市民や他業種との公平性の観点から市の税務相談窓口の周知などで対応することが適切と考えます。	無
6	【p. 55】 第4章 基本施策2 主な施策2-2. 農地貸借制度の活用促進	若い世代で、起業として農業を選択する人が最近増えている。たいていは地方で行われていると思うが、都市農業こそやりやすいのではないかと。都市ならではのメリット(消費者が近い、暮らしも便利)を打ち出し資金援助も含めて支援してほしい。また、農家とのマッチングは重要なので、マッチングできる人材育成や研修なども他の地域を参考にしてほしい。	新規参入による就農者が安心して農業を始められるよう、国や東京都の補助制度の周知や農業経営・就農支援センター等の関係団体と連携した支援を行っています。今後も、他自治体の事例等の情報を収集し、支援制度について研究するとともに、認定新規就農者制度の導入を進めていきます。	済
7	【p. 58】 第4章 基本施策3 3-3. 持続可能な農業の推進	安全・安心で生産と環境に配慮している農産物がここにあることを丁寧に伝えることで、信頼と自信を互いに持てるようになります。多少高くても、それを分かれば選ぶ消費者がこのまちにいます。化学肥料や農薬の使用を減らした農産物ができたときは、それを分かるように、消費者が選択できるようにしていくことで、国分寺産への信頼につながります。新たな挑戦をする農業者には助成をし認証してほしい。また、慣行栽培も、大産地などより農業を低減していることなどをアピールしてほしい。	市内農業者は、安全・安心な農産物の生産に向けて絶え間ない努力を重ねています。GAP認証や東京都工農産物認証制度について、多くの人に知ってもらえるようPRしていきます。	済
8	【p. 59】 第4章 基本施策4 地産地消・ふれあい農業の推進	有機農業の推進についての言及がありませんが、「ブランド力」の一つとし、取り組むべきです。学校給食も「地元で新鮮」ということだけでなく、身体にも負荷のない低農薬・無農薬野菜の利用を広げてほしい。	市内農業者は、安全・安心な農産物の生産に向けて絶え間ない努力を重ねています。低農薬・無農薬の農産物は、価格や形など消費者のニーズに大きく影響されることから、慣行農業をベースとしながらGAP認証や東京都工農産物認証制度の周知を図り、国分寺農業の発展に努めていきます。	無
9	【p. 59】 第4章 基本施策4 地産地消・ふれあい農業の推進	学童農園を各学校に作ってほしい。土作りから収穫まで一連の流れを学ぶことは子どもの学びに欠かせない。無理なら、親戚のような関係で学校と農家がつながるといいと思う。	学童農園の増設は、引き続き各学校や農業者の相談に応じて取り組んでいきます。また、国分寺いきいき農園での「親子農業体験教室」などを通じて、子どもが学べる機会を提供していきます。	済
10	【p. 59】 第4章 基本施策4 地産地消・ふれあい農業の推進	コンビニと農家の連携。コンビニのコーナーに地場野菜を置いてある店舗があるが、このように暮らしに身近なコンビニの店内もしくは店舗の外などに地場野菜コーナーを作る働きかけをしてほしい。市内各所で地場野菜が購入できることになり、地場野菜の理解と利用拡大になると思う。	市内では、約60か所の直売所や共同販売所でこくベジを購入することができます。より多くの場所で身近にこくベジを購入していただけるよう、販売場所の確保やイベント開催に努めてまいります。	済
11	【p. 59】 第4章 基本施策4 地産地消・ふれあい農業の推進	都市農業公園をつくる。駅近の農家の畑を買い取り、こくベジの拠点をつくる。気軽に体験できて購入もできる。アンテナショップのような役割が持てる。	住宅地に多くの畑があることが市の魅力となっており、直売所や駅前で定期直売、イベントでの販売など身近にこくベジを購入いただくことができます。また、様々な場所で農業体験の機会を提供しています。そのため、都市農業公園という形ではなく、畑が近くにある都市農業の利点をいかした取組を引き続き進めてまいります。	無
12	その他	何より大事なことは、子どもたち世代に農のあるまち国分寺をつなげていくこと。現在、小学校でこくベジの総合学習の授業や収穫体験などが行われており、先日小学校の展覧会で子どもたちの作品を見せていただいたが、子どもたちは、湧き水や崖線や野川沿いの緑、そして畑、軒先販売があって新鮮な野菜をいつも食べられる国分寺に愛着を持っていることが分かった。この計画について、分かりやすい子ども版を作してほしい。	子ども版の計画作成の予定はありませんが、小・中学校へ出前授業や、各種イベントなどを継続することで、農への理解を促進していきます。	無
13	その他	第三次計画の概要版がとてもよくできていると思うので、今回も分かりやすく農業のイメージアップにつながるような概要版を作成してほしい。	第四次計画においても概要版を作成いたします。	済